

活動分野	地域部会(中央・九十九里)		
タイトル	寝釈迦に見守られる古村の春を歩く		
実施日時	平成 30 年 3 月 18 日 (日) 10 時~14 時		
実施場所	八街市根古谷、岡田集落周辺		
受講者	名	F I C 会員他スタッフ	10 名

活動の内容

早春の一日、JR 八街駅と千葉都市モノレール千城台駅を結ぶ直線のほぼ中間に位置する、八街市根古谷、岡田集落周辺に残された北総の古村の面影を、地元の Mz さんの案内で巡りました。

印旛沼に注ぐ鹿島川の支流に沿った田園地帯、ここは対岸の台地のシルエットがお釈迦様の寝姿に似ていると云うことで”寝釈迦の里“といわれる所です。途中で左岸の丘にある“根古谷城址”へ、ここは千葉氏の家臣によって築城され、北条市の滅亡(1590 年)とともに廃城になったという、本佐倉城と同じ運命を辿った訳で、往時はこののどかな北総の里にも戦乱の嵐が及んだのかも知れません。更に同時期の開基といわれる古刹「法宣寺」。それから、珍しい「岡田の神社集落」、これは村内各地に祀られていた八社が明治政府の命令で一カ所に集められたのだとか、でも表示は立派ですが、個々の社は”少し大きめの犬小屋?“のイメージ。

またここは江戸時代には佐倉七牧の一つ柳沢牧があり、当時の言い伝えが残された馬頭観世音もあります。

普通”八街”と聞くと”落花生”のイメージですがここまでは標高 10m 少しの水田地帯ばかり、しかし馬頭観世音の裏の



お釈迦様の頭と胸



坂道を登った標高 40m 程の台地で初めて赤土の落花生畑を見て「八街に来た」ことを納得。また水田地帯に下り、かつて県中央博の展示モデルにもなったという典型的な北総の谷津、カワニナも見られる「岡田の谷津」を観察。



台地の落花生畑と境界木(ウツギ)



岡田の神社集落

午後、八街市指定天然記念物「日枝神社のカタクリ群生地」を訪れ、そこで解散しました。



岡田の谷津